

# 12月の果実の見通し

令和3年11月30日現在  
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
りんご類	青森 長野 山形 ほか	6624	85%	6576	315	高い	332	808	12.2%	春先の霜害による影響が非常に大きく、各産地は予想外の数量減で展開している。長野産は下方修正の数字が大きく、12月は数量が少なく正品率は低い。山形・岩手産も同様であり、青森産も例外ではない。青森産は成りは良いが、小玉傾向、しかも色薄やスレ果の比率が高く、正品率は高くはない。出荷量は少なく単価高となる。
西洋なし類	山形 新潟 ほか	620	80%	685	406	並み ~ 高い	384	455	73.4%	山形産「ラ・フランス」は11月下旬で大半のJAが終了し、12月上旬~中旬までだらだら出荷が続く。出荷量は昨年を大きく下回る見込み。新潟産「ル・レクチェ」は11月19日より販売が始まり11月末~12月上旬が出荷ピークとなる。ギフト需要期は出荷が早まったことで早く落ち着き、中旬からは引き合いが弱まり始める。販売は12月下旬まで。
かき類	福岡 奈良 ほか	1647	90%	2309	374	高い	318	61	3.7%	「たなねし柿」の販売は11月で終了となり、「次郎柿」の販売は12月上旬で終了となる。「富有柿」の出荷は各県で出荷状況は違うが、春先の霜害や肥大型の水不足により小玉傾向となり数量減が大きい。全体的には平年よりも少なく上中旬で終了となる。「袋掛け」は上中旬から始まり「冷蔵物」の販売は中下旬から始まる。全体的にはL>2L>の見込みで、大玉は少なく全体量入荷量も多くない。
干し柿	山梨 長野 福島	513	80%	547	2282	並み ~ 高い	2144	30	5.8%	長野産「市田柿」の販売は11月22日からスタート。年内出荷は前年の110%を見込む。13日頃からピーク。本年度はやや小玉傾向でL中心。山梨産「枯露柿」は上旬より販売開始。原料柿の作況が悪く、前年の5割ほどの出荷見込み。富山産「干し柿」は上旬からで、出荷量は前年並みの見込み。福島産「あんぼ柿」も原料不足のため7割ほどの出荷。各産地原料柿の不足や高齢化の影響を受け出荷量は7割ほどになる見込み。
みかん類	愛媛 長崎 熊本 ほか	32449	100%	32336	280	並み	300	-	-	本年は8月降雨の影響で一時的に低糖になったが、9月以降の干ばつにより糖度も回復し、仕上がりは良好。本年12月上旬で早生みかんは販売終了の見込み。玉流れは例年通りM>L>S。中旬からは「普通温州」が始まり、みかん類の総入荷量は前年並みからやや少なく、価格は前年並みを見込んでいる。「葉付きみかん」の販売は12月23日頃を見込んでいる。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果(株))

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)